

授業科目名	授業担当者(担当)氏名	区分	単位	年間授業時間	受講学年	開講年次
西洋音楽概論	新垣 隆	選択 (選択必修)	1	15時間	1/2	毎年

《授業の概要》

西洋音楽をめぐる諸問題について

《到達目標》

西洋音楽への深い理解、に尽きる。

《授業計画》

- 第1回 [4/16(土) 11:20~13:00]  
 授業: 「劇場」と「グラフの概念」に関する考察。  
 事前: バッハ「ブランデンブルグ協奏曲第1番」の成立について推論する。(60分)  
 事後: 上記作品の楽曲分析。(120分)
- 第2回 [5/28(土) 11:20~13:00]  
 授業: 「ピアノ協奏曲」について。主にオーケストラについて論じる。—①  
 事前: ベートーヴェン「ピアノ協奏曲第3番」を取り上げるのでスコアを読んでおく。(60分)  
 事後: 各自任意の同ジャンル曲について検討せよ。(120分)
- 第3回 [6/25(土) 11:20~13:00]  
 授業: 「ピアノ協奏曲」について。主にオーケストラについて論じる。—②  
 事前: ベートーヴェン「ピアノ協奏曲第3番」を取り上げるのでスコアを読んでおく。(60分)  
 事後: 各自任意の同ジャンル曲について検討せよ。(120分)
- 第4回 [7/12(土) 11:20~13:00]  
 授業: 形式に関する考察。  
 事前: ショパンの諸作品の形式を検討せよ。(60分)  
 事後: ショパンの作品のうち、バラード、即興曲、子守唄の形式を分析せよ。(120分)
- 第5回 [9/30(金) 11:20~13:00]  
 授業: 「1870年以降」というテーマを立て、ヨーロッパの音楽状況について考察する。  
 事前: 普仏戦争以後のヨーロッパの歴史をひと通りみておくこと。(120分)  
 事後: 授業によって見出された問題を各自検討していく。(120分)
- 第6回 [10/29(土) 11:20~13:00]  
 授業: 「1870年以降」というテーマで、今度は日本の音楽状況について考察する。  
 事前: 江戸時代と明治以降の連続面と非連続面についてある程度整理しておくこと。(120分)  
 事後: 授業によって見出された問題を各自検討していく。(120分)
- 第7回 [11/26(土) 11:20~13:00]  
 授業: 20世紀前半における「新古典主義」とは何か  
 事前: 授業ではストラヴィンスキー「2台のピアノのための協奏曲」を取り上げるので、試聴しておくこと。(30分)  
 事後: ヨーロッパで起こったこの思潮が同時代の日本の作曲を目指す者達へ与えた影響について考える。(120分)
- 第8回 [12/15(木) 11:20~13:00]  
 授業: 「自在」について  
 事前: 「自由についての考え方」について考える。(60分)  
 事後: 授業で取り上げた作品について各自、更に検討せよ。(120分)

《履修資格／履修に必要な予備知識や技能》

1・2年次生。 ※専修免許状取得申請予定者必修科目。申請予定者は2年通して履修すること。

《授業の形式》

講義

《成績評価の要点》

試験： 10% 提出課題・作品発表等 10% 受講姿勢： 100%  
成績評価は、上記の項目に基づき「優」「良」「可」「不可」で評価する。

《課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法》

授業内でコメント

《授業時間以外で、この授業内容等について質問がある場合》

授業時間前後。事前に担当教員へアポイントを取ること。